

# 当面の技術対策（畜産編）

平成23年10月1日  
ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

## 1 草地及びサイレージ用とうもろこしにおける粗飼料収穫後の管理

### (1) 自給肥料の活用

堆肥やスラリー、牛尿には肥料成分が多く含まれています。肥効は緩行的なので化学肥料に比べてマメ科牧草を良好に維持できる特性があります。

#### 草地

たい肥の秋施用は、二番草刈り取り後なるべく早く施用しましょう。施用量は乾物収量やマメ科率維持のため、10a当たり4トンを上限とします。

スラリーは、二番草刈り取り後から10月下旬までと来年春5月中旬までに、それぞれ10a当たり2～3トンずつ分施をしましょう。散布前に、臭気対策と牧草への付着軽減のために十分な曝気を行い粘性度を下げてから散布しましょう。

#### 飼料用とうもろこし畑

たい肥の秋施用は、アンモニア態窒素が硝酸化成を受け、流亡する危険性があるので地温が低下した10月中旬以降、凍結または降雪前までとし、散布後土壌と混和しましょう。

スラリーは、窒素流亡による環境汚染、窒素肥効が低い等の点から秋より春施用に限定すべきですが、秋施用に当たっては速やかに土壌と混和しましょう。

### (2) 草地の雑草処理

計画的な雑草処理を行い、牧草の生育・収量の確保、草地の維持に努めましょう。

ギシギシの防除は秋処理が有効です。牧草収穫後、ギシギシの葉が手のひらサイズに展葉した草丈15cm～20cmが除草剤散布の目安となります。

表1 ギシギシ類の秋処理

薬剤名	使用時期	適応草種	薬剤量	水量
ハーモニー 75DF水和剤	・夏及び秋処理 ・採草21日前まで	イ科単播経年草地	3g/10a	100L
		イ科+アルファ混播経年草地 アルファ+イ科混播経年草地	2～3g/10a	
・夏及び秋処理 ・採草21日前まで ・ギシギシ草丈20cm以下	新播草地	0.5～1g/10a		
アーザラン 液剤(2)	・秋処理 ・最終採草後	経年草地	300～400 ml/10a	

(1) 使用後の散布機洗浄は、必ず専用の洗浄剤を使用してください。

(2) 気温が高いと薬害の可能性があります。また往復掛けにも注意しましょう。

### (3) 秋耕起の実施

土壌凍結する十勝では、春の耕起作業が遅れがちになります。飼料用とうもろこしの作付けを予定している圃場は出来るだけ秋のうちに耕起しておきましょう。

有機物を分解するためには温度が必要で、地温のある秋の方が畑の残渣物を分解出来ることとなります。また、雑草を土中に鋤き込むことでの雑草処理や雑草種子の凍上による発芽能力の低下も見込めます。

### (4) サイレージ用とうもろこしの病害対策

根腐病・すす紋病等の病害は、湿害の影響を大きく受けます。連作回避とともに心土破碎、明・暗渠整備等の基盤整備を積極的に行いましょう。

## 2 乳牛飼養管理

日に日に朝晩の冷え込みが強まり、1日の平均気温が下がってきます。搾乳牛は真夏の暑い時期より、涼しくなる今頃に「夏バテ」の症状を見せることがあります。「エサを十分に食べているか?・反芻は十分か?・ゆったり横臥できているか?」等、観察を強化し、乳牛の体調管理に気を配りましょう。

暗くなるのが早くなります、農作業事故に注意しましょう!